

令和6年度 学生FD CHAmmit 学部提案書に基づく学生への回答書

1 学生との協議の場について

実施日	実施内容
令和6年12月20日	FD CHAmmit参加者（教職員含む）及び学生スタッフ、FD委員会委員、事務職員の計24名で駿河台校舎と船橋校舎の会議室に集まりテレビ会議システムを使用し、学部提案書について1時間程度、実現に向けて意見交換を行い、FD委員会で検討しました。

2 理工学部から学生へのメッセージ

令和6年度においては、理工学部からは14学科の学生と教職員の合計24名の皆様にご参加いただき、理工学部で学ぶ意義や理想の学部にするための提案をいただきました。ご参加いただきました学生と教職員の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。

今年度の提案については、「対応済」が15件、「対応中」が1件、「検討中」が3件となりました。「対応済」は、理工学部ではすでに取り組んでいることや対応していることが多く、学生の皆さんへの周知方法などの改善を図って参ります。また、「対応中」・「検討中」はカリキュラム等の関係上、すぐには解決できないものもありますが、関係部署が連携し、より良い教育環境づくりに努めます。

今後も理工学部では、14学科の特色を活かし、各学科での取り組みや実例などを共有し、教育の質や改善について検討を重ね、理工学部の教育の質の向上と教育環境の充実に努めて参ります。

3 学部提案書の対応について

「学部に望む授業」の提案について

項目	対応済	対応中	検討中	対応内容
社会の身近な問題やニュースと学問をつなげる授業	○			学科の専門性によっては、必ずしも社会の身近な問題やニュースなどを取り上げて関連付けて説明したり、解説することは難しいですが、科目によっては、関連したトピックがあったときには、受講生に解説、説明をしています。 また、ニュースやトピックに限らず、学んでいることが社会でどのように関わるのか、習得した技術や学修した内容が社会でどのように活かされるか、説明している授業もあります。
過去の授業動画の配信	○			全ての科目において、過去の授業を録画しているわけではないので、配信することは難しいですが、各科目担当者は、予習復習に必要な資料や理解に必要な解説などは、LMS等を通して提供するように促しています。
提出した課題に対してフィードバックがある授業、成績の発表を早くしてほしい	○			理工学部では、理解度確認期間中における平常試験や定期試験を実施した科目は、原則として試験後にその解説などフィードバックをしています。試験後にその解説などを行っていない科目については、関係部署から授業内での解説やLMSなどを活用し情報提供するなど、フィードバックをするように促しています。
オンラインツール等を活用して、他学部の授業を学ぶ授業	○			理工学部単独で実施できないこともありますが、理工学部では、14学科や併設の短期大学の特性を活かし、他学科履修や単位互換などで、自らの専門に限らず、学修できる機会を提供しております。また、一部科目においては、オンライン授業を実施しています。 今後はさらに発展し、近隣学部や他学部でも、ICTを活用し、理工学部や自宅からでも受講できる機会を提供できるよう検討していきたいと思っております。
生成AI技術などデータサイエンスを学ぶ授業基礎から学んでリテラシーをつける		○		現在、データサイエンスについて学ぶ科目の設置を検討しております。

項目	対応済	対応中	検討中	対応内容
成績基準の明確化（割合ではなく詳しい評価点）や基準をさげてほしい	○			評価点に関する詳細については、各科目担当者が全ての科目において、全学生に開示することは難しいです。しかしながら、成績に関する質疑期間等で質問すれば開示することもあります。 また、各授業は、それぞれの学修到達目標等に応じて、設計されており、15週に亘り学修した成果を成績評価として科目担当教員が評価します。そのため、基準を下げることは望ましいものではありませんが、課題や試験等の結果については、授業内での解説やLMSなどを活用し情報提供するなど、フィードバックをするように促しています。
授業時間の短縮化	○			単位修得に必要な学修時間は、大学設置基準で「1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし」と規定されており、日本大学ではそれに基づき、授業科目の単位計算をしています。
他学部、他学科対抗で競い合うような授業	○			各学科で学ぶ専門性の観点から、他学部や他学科間で競い合うような授業の実施は困難ですが、理工学部の一部の分野では実施しています。 (英語：一般教育教室主催の英単語コンテストなど) また、競い合うものではありませんが、12月に開催している理工学部学術講演会では、各部分（部会）に分かれて、学科ごとに研究成果を発表する機会を設けています。
授業前に資料を配布する	○			授業科目の単位は、授業時間と学生が行う授業時間外学修によって構成されています。各科目担当者は必要な授業時間外の課題や予習等を学生に求めます。学科や科目の特性によって、一律に資料を事前配付することは、ふさわしくありません。各科目担当者は、科目の学修到達目標や事前・事後学修に合わせて、資料の配布時期等を調整しています。
提出物のフィードバックをする	○			一部の科目においては、レポート等の課題に科目担当教員が添削をした上で、返却することで、提出物のフィードバックをする科目もありますが、全ての科目において、全学生に実施するのは難しい状況です。現在、課題に対してフィードバックがなされていない科目については、関係部署から、模範解答などを授業内で解説したり、LMSなどを活用し、フィードバックするように促していきます。
答案返却をする	○			上に同じ

項目	対応済	対応中	検討中	対応内容
他学部や他学科と協同で一つの課題に取り組む講義	○		○	専門性の観点から、専門科目においては、他学科と協同する科目の設置は難しいのが現状です。しかし、「自主創造の基礎」など一部科目においては、他学科と協同して課題に取り組む授業も実施しています。また、日本大学では「自主創造プロジェクト」として、学部間交流を通じて多様性に対する気付きを与え、自らの学修をより深化させるための一助とすることを目的としています。 12月に開催している理工学部学術講演会では、各部分（部会）に分かれて、他学科の学生発表等から気付きを得られる機会も設けています。また、協議会の中で出た他学科科目であるが同一科目において、学科の特性上見る視点が違うので、学科を横断して意見交換をしたいとの意見がありました。各学科へFD委員会を通じてそういった機会を提供できるか検討していきたいと思います。
学生同士が主体となって議論を行ったり、アクティブラーニングを行う授業（教員が一方向的に説明するだけではないもの）	○			アクティブラーニングの実施を含めて、授業の実施形態は、科目担当教員の裁量に委ねておりますが、各科目担当者は、科目の学修到達目標に応じて、適した形式で授業を実施しております。 理工学部では、本年度より「教育貢献賞」を制定し、「授業改善のアンケート」において学生から評価が高かった教員に対して、Best Teaching AwardsあるいはTeaching Awardsとして表彰しており、この制度によって、教員が学生の満足度が高い授業を実施するよう促すとともに、今後は受賞した教員などの授業での取組を学部内で共有し、学生の満足度が高い授業を実現できるように促しています。
毎年、テスト内容を変えて暗記型のテストではなく、自ら考えられる授業	○			各授業は、それぞれの学修到達目標等に応じて、設計されており、15週に渡り学修した成果を成績評価として科目担当教員が評価します。学修目標へ到達するためには、公式など暗記が必要なこともあります。それをどのように応用するかなど、自ら考える必要も生じます。 各授業では、科目担当者が成果を確認する適切な方法として、レポートや試験などを実施しています。
海外や異分野の考え方、文化を学ぶ授業	○			建築系など、諸外国の取組などを授業で取り扱う科目もありますが、すべての科目において、海外の事例を扱う科目が設置されているわけではありません。しかし、異分野の考え方を学ぶことについては、他学科履修などを利用することが可能です。
職場体験や現場の人とコミュニケーションをして、現場を知る授業	○			多くの学科で1年次から、学科に関連する分野で働く有資格者や実務経験者を招き、体験談及び最新技術などの紹介するなど、より実践的な学びを提供しています。
実際の現場に行ったり、より実践的でリアルを学べる授業	○			学科によっては、校外実習を行う授業を実施しています。また、実施のために校外へ行かずとも、多くの学科で1年次から、学科に関連する分野で働く有資格者や実務経験者を招き、体験談及び最新技術などの紹介をするなど、より実践的な学びを提供しています。

項目	対応済	対応中	検討中	対応内容
他分野の最新技術を学んで活用する授業 例：3Dプリンター	○			上級生の科目では、自らの研究を進める上で、最新技術を学ぶ必要もあり、大学院に進学するとさらに先進的な研究を進めることとなります。自分の専門科目であれば、大学院進学を予定する学部4年生については、科目等履修制度で、大学院の授業を受講できる機会を設けております。他分野であれば、他学科履修等で、他の専門科目を受講する機会も設けています。
一般教養科目の抽選方法を変えてほしい			○	学修環境を整えるために人数調整を行っています。 一般教育教室と関係部署で運用方法について検討していきます。
先生が（レジュメなし、テストなしのような） チョーク1本で行う授業			○	授業実施方法の改善については、FD委員会を通じて検討していきたいと思えます。

※令和7年4月1日現在の対応内容となっており、今後の状況によって変更する可能性があります。